

**介** 護業界の人材が全国的に不足している中、昨年4月に町内で居宅介護支援事業所『ケアトカ』を立ち上げた加藤憂也さん。「介護認定を受けた方の不安な気持ちに寄り添いながら、末永く自宅での生活が送れるように支援していきたい」と力を込める。

居宅介護支援事業所とは、介護の認定を受けた方が自宅で自立した生活を送れるように、介護サービスがどれくらい必要かというような計画書を作成し支援していく事業所のこと。ケアトカには、現在4人のケアマネジャー（介護支

援専門員）がおり、100人近い利用者を支えている。

事業所名の『ケアトカ』とはケアマネジャーの「ケア」と、家族のこととか、お金のこととか、病気のこととか、というような「とか」とを合わせた造語。「どんなことでも構わないので、いろいろな悩みや不安なことを、遠慮なく我々に相談してほしいと思い名付けました」と加藤さん。

加藤さんは、これまでに訪問介護や通所介護、特別養護老人ホームなど、さまざまな介護現場での経験を積み、現在に至っている。

「祖母が片マヒで、子どもの頃か

ら介護を受けている人の生活を身近に感じながら育ちました。その祖母が亡くなる時には、これまで自身でできていたことができなくなっており、何とかしてあげたいけれども自分には何もできず、つらくて悔しい思いをしました。それで、まずは自分でやってみようと思ったんです」と、介護業界へ踏み込んだきっかけを話した。

加藤さんは管理者として、職場での働きやすさや職員間のコミュニケーションなどを大切にしている。職員の人材育成や就労環境等の改善につながる取り組みを行っている介護事業所に対し、北海道が認証をする『働きやすい介護の職場認証制度』へ申請したこともその一つ。

「ケアマネジャー自身も上手くいかなくて悩んだり、不安になったりすることがあります。弊社では職員一人一人にスマートフォンとタブレットを支給し、情報を共有しています。不安や悩みを職員同士で共有することで、みんなで協力してできますし、休暇の調整もしやすい。やはり、働きやすい職場づくりが大切です、そのことがひいては利用者様のためにもなっていると思います」

ケアトカでは『介護の不安な気持ちに寄り添います』を企業理念に掲げている。

「介護の認定を受けると誰もが不安を抱えます。そういう不安な気持ちに寄り添いながら、お話を聞いて、同じ目線で考えることが大切だと思います。安心して何でも気軽に相談してもらえるように、少しでもケアトカの魅力を上げていきたいと思っています」



# 加藤憂也

かとう ゆうや

1988年7月4日生まれ。釧路町出身。釧路江南高等学校卒業後、自衛隊へ入隊。1年で退職し介護業界へ。2018年に白糠町へ転入し、町社会福祉協議会居宅介護支援事業所に務める。趣味は歌うこと、娘と遊ぶこと。

「不安な気持ちに寄り添いながら、同じ目線で考える」



休日は、娘の永華ちゃん（白糠学園2年）と近所にある「あやめが丘公園」で遊んでいます。